

行って学んでみませんか

菊池恵楓園



緑豊かな憩いの場

菊池恵楓園は、約60万㎡の広大な敷地に病棟や管理施設、さまざまな福祉施設が設置されています。松や杉、ツツジやケヤキなど約5、500本の木々が植栽され、自然豊かな地域の憩いの場として親しまれています。特に、春は約400本の桜が満開となり、多くの人が見学に訪れます。このほか、毎年行なわれる夏の納涼盆踊り大会には地域の人も楽しく参加するなど、四季折々の行事や風景が訪れる人を楽しませてくれます。

入所者自治会

菊池恵楓園には、入所者自治会があります。地域の自治会活動と同じく、生活に関わることや行事を行ない、役員は自治会代表として活動しています。自治会には毎年多くの人権学習の申し込みがあり、昨年は121団体、約6、000人がハンセン病問題について学びました。

ハンセン病問題の啓発、そして園との地域交流を深める取り組み

菊池恵楓園交流活動
市民・協力団体による清掃ボランティア
6月7日、市は、市商工会のクリーンキャンペーンと共催で菊池恵楓園内の清掃ボランティア活動を行いました。
グラウンドやゲートボール場の利用団体、市と連携協定を結ぶ各大学、市職員など約600人が参加。早朝から熱心に園内とその周辺のごみ拾いや除草作業を実施。参加者からは、「初めて園内に入りました。自由に立ち入ることができると知りませんでした」「木々が多く、自然豊かで良いところですね。またゆっくり見学したいです」などの声が聞かれました。



5



左) 協力して園内のゲートボール場を清掃する参加者たち 下) 利用者や市商工会、市の連携機関、市職員など総勢 600 人が参加し、汗を流しました



ハンセン病問題啓発事業講演会

6月20日、ヴィーブル文化会館で開催。約650人の参加がありました。「二度の社会復帰をとおして」と題して、菊池恵楓園退所者「ひまわりの会」会長の中修一さんが講演。中さんは、菊池恵楓園での生活や社会生活で感じたハンセン病問題の現状などを話し「この問題はハンセン病回復者だけのものではなく、市民一人ひとりの問題として認識してほしい」と、その思いを訴えました。

参加者の感想（抜粋）

・歴史上のことではなく、今もお続く差別として真剣に向き合っていかなければならないとあらためて感じました。全ての人が「ありのまま」の姿でいられる社会をみんなで作っていきたいです。（20歳代）
・息子には障がいがあるのですが、これからの長い人生、息子が中さんのように強く前向きに生きてほしいと思います。中さんの話で自分自身の考えをもう一度あらためるきっかけとなり、親として子どもたちが強く生きることができるよう頑張つて子育てしようと思います。子どもたちを連れて恵楓園にもうかがいたいです。（30歳代）



上) 講演中の中さん 下)ヴィーブル館内で展示したハンセン病問題啓発パネルの一部

菊池恵楓園とハンセン病の歴史を正しく学ぶ

● 社会交流会館

ハンセン病をはじめ、これまでの菊池恵楓園の歴史を学ぶ人権学習の資料が多数展示され、園の歴史や人権について学ぶ場として活用されています。



社会交流会館

開館時間 午前10時～午後4時
休館日 毎週水・日曜、祝日
入館料 年未年始 無料

● ハンセン病問題教育・啓発DVD

ハンセン病と療養所生活などの歴史を、入所者の皆さんの思い出などと共に学ぶことができます。大人用・子ども用の2枚組みです。



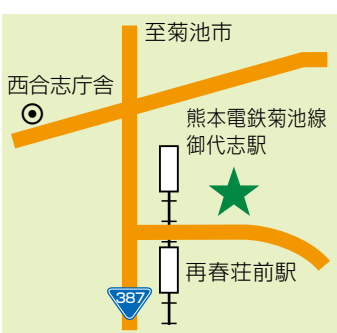
教育・啓発用DVD
壁をこえて
～ハンセン病問題・菊池恵楓園の歴史に学ぶ～
※西合志図書館、ヴィーブル図書館で貸し出し中

入所者の平均年齢は83歳

入所者の皆さんはハンセン病治療薬により治癒しており、平均年齢は83歳です。ハンセン病に対するこれまでの隔離政策による長い歴史の中で、社会の偏見や根強い差別などにより多くの人が社会復帰が難しいまま高齢となり、今日を迎えています。

身近に感じられる恵楓園を目指して

市は園と協力して、ハンセン病問題啓発事業をはじめ、啓発DVDの製作、ボランティア活動など、関係機関と共に入所者の皆さんの人権と名誉の回復に力を注いでいます。今後もこのような活動を通して市民の皆さんが菊池恵楓園を知る機会を増やし、園や入所者の皆さんが地域にとって、より身近な存在となるよう取り組みます。



国立療養所
菊池恵楓園
栄3796番地 ☎248-1131

● 問い合わせ先

福祉課 社会福祉班(西合志庁舎)
☎(242) 1149
人権啓発教育課 御代志市民センター内
☎(242) 1190